

I 浄土真宗のすくい①

本願寺派布教使・行信教校講師 中西昌弘先生

“ああ、弘誓の強縁、多生にも値ひがたく、真実の浄信、
億劫にも獲がたし。たまたま行信を獲ば、遠く宿縁を慶べ。
もしまたこのたび疑網に覆蔽せられば、
かへつてまた曠劫を経歴せん。
誠なるかな、摂取不捨の真言、超世希有の正法、
聞思して遅慮することなかれ。”



—『顕浄土真実教行証文類』総序

永代経法要がお勤まりになっております。永代というのは永久の「永」ですね。この先、お念仏の教えがずっと説き続けられていきますように、また人々の心の中にお念仏の教えがしみ通っていきますように、そういう願いを込めて勤めさせていただくお仏事でもございます。

我々は「お念仏ぐらいで」と、つつい思いがちですけれども、お念仏がなければ本当の意味で私たちは生きることも、また死ぬることもできません。それほど大切なものを親鸞聖人というお方は私たちに伝えてくださいました。

その親鸞聖人のみ教えを「浄土真宗」と申します。浄土真宗というのは一体どういう教えかと言いますと、『歎異抄』という書物がございます。

これは、親鸞聖人に唯円という非常に徳の高いお弟子がおられまして、このお方が平生から親鸞聖人の言葉を非常に大切に実感されており、ご自身がお了解できた世界だけを『歎異抄』という書物の中に認めてくださいました。だから、非常にありがたい弟子と師匠との間の平生公式の場では何うことのできないような面が、『歎異抄』という書物に何うことができます。

その中で、浄土真宗という教えはどういう教えかと言った時に、「本願を信じ、念仏申さば仏になる教えなのです。だから最終的に我々は仏さまにならせていただく、そういう“いのち”をこなして賜っているのですよ。そのことに一日も早く気づきなさいよ」とこう教えてくださる。それが親鸞聖人の教えの特徴であります。人間死んだらどうなるかという問題は、我々がいくら考えてもまともな答えは出てきやしません。

いくらノーベル賞をいただける学者さんといえども、命の分析はできるかもしれませんが、も、“いのち”の本質に触れるということはちょっとしんどいのではないしょうか。

その時に、我々の常識的な考え方をちょっと横へ置いておきまして、お釈迦さまがお説きくださいました『浄土三部経(仏説無量寿経・仏説観無量寿経・仏説阿弥陀経)』のお経の言葉を私の答えにさせていただく。これが一番近道であると言われております。

2021年5月1日「正宣寺永代経法要」より